

氏名	中 西 一 夫		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博乙第		号
学位授与の日付	平成16年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	原発性骨粗鬆症患者に対する薬剤併用療法効果 -フェイススケールとNTXの関連性について-		
論文審査委員	教授 五味田 裕	教授 平松 祐司	助教授 堤 明純

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

目的：当院における骨粗鬆症患者に対する薬剤併用療法について検討した。
 対象および方法：6ヶ月以上継続して治療を行った骨粗鬆症患者532人を対象とした。腰椎単純X線写真,尿中I型コラーゲン架橋N末端テロペプチド (NTX),さらに骨粗鬆症患者のQOLの評価として,骨粗鬆症に由来する腰背部痛に対してフェイススケールを用いて評価した。
 結果：エチドロネート (EHDP) はフェイススケールを有意に改善していた。EHDPは単独ではNTXの有意な改善は認められなかったが,併用群では有意に改善していた。フェイススケールとNTXの関連性は認められなかった。
 結論：EHDPは骨吸収抑制作用と疼痛抑制作用の両方を併せ持った薬剤と考えられた。その疼痛抑制作用は,骨吸収抑制作用とは異なった作用機序によるものと考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究者は、原発性骨粗鬆症患者に対する薬剤併用療法効果をフェイススケールとNTXの関連性について検討したものである。対象は6ヶ月以上エチドロネート (EHDP)等による継続治療を行った骨粗鬆症患者において、腰椎単純X線写真、尿中I型コラーゲン架橋N末端テロペプチド (NTX)、さらに患者のQOL評価として腰背部痛によるフェイススケールにて検討している。その結果、EHDP投与患者ではフェイススケールは有意に改善された。またNTXに対しては、EHDP単独では改善されなかったが多剤との併用で改善された。しかしフェイススケールとNTX間では関連性は認めていない。そのようなことから申請者は、EHDPは骨吸収抑制と疼痛抑制作用の両方の作用を持ち、その疼痛抑制と骨吸収抑制作用は異なった作用機序と結論付けた。

しかしながら審査委員より、患者の背景因子に関するデータ分析がなされていないとの指摘で、申請者に対して対応可能かどうか伝えた。その結果、申請者は患者背景因子からのデータの群内・群間比較を行い、特にHRT（ホルモン療法）有無でのデータの差異が認められた内容を含む別紙資料が提出された。

審 査 概 要：

その提出資料ならびにその対応態度(能力)を再度審査した結果、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。なお、再審査の段階で明らかになったHRT有無での治療効果は早期に論文化することも指導した。